



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/27 (月)	+ 100	+ 10,000	+ 10,100	国庫短期証券発行償還 (3M) 各種財政資金の支払い	社債等買入 ▲ 100		
7/28 (火)	+ 500	+ 1,000	+ 1,500				米：FOMC (1日目)
7/29 (水)	+ 500	▲ 8,500	▲ 8,000	流動性供給			米：FOMC (2日目)
7/30 (木)	+ 500	+ 1,000	+ 1,500				日：日銀金融政策決定会合 (1日目) 米：GDP (2Q) 欧：ユーロ圏GDP (2Q)
7/31 (金)	▲ 100	▲ 1,600	▲ 1,700				日：日銀金融政策決定会合 (2日目) 鉱工業生産 (6月) 欧：ユーロ圏CPI (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、気候変動オペのスタート等によって、前営業日対比5兆200億円増加の436兆6,800億円から始まった。その後、国債発行や各種財政資金支払い等の要因により増減し、24日は439兆3,700億円（速報）で越週した。無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後試し取りが行われたことから、0.977%～0.980%のレンジで推移した。

ターム物は1W～3W物0.981%～1.100%のレンジ、1M～3M物1.10%～1.250%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では30・31日に日銀金融政策決定会合の開催、海外では28・29日にFOMCの開催、30日に米・欧GDP(2Q)、31日にユーロ圏CPIの公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ～ 0.978
1M	1.05 ～ 1.10
2M	1.10 ～ 1.20
3M	1.15 ～ 1.30
6M	1.30 ～ 1.50

<レボ>

足許GCは週を通して1.000%～1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470～482回債、5年155～185回債、10年356～372、378～381回債、20年110～130回債、30年86～90回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.1 ～ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は1兆930億円で、週間償還額の1兆1,980億円を下回った。発行残高は、先週末時点の26兆4,478億円から、7月23日時点で26兆2,950億円へと減少した。発行市場では、鉄鋼・電気機器・小売業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.1%程度から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約3兆3,545億円となっている。発行市場は、月末で企業の調達ニーズが高まることから、活況なマーケットが見込まれる。発行レートは、7月30・31日に金融政策決定会合が行われることから、引き続き水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

24日の3M（第1396回債）の入札は、最高落札利回り1.0092%（前回債0.9695%）、平均落札利回り0.9907%（前回債0.9618%）となった。来週の入札は30日に3Mが予定されている。